

伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第 12 回 まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2025 年 7 月 3 日(木)			
開催時間	開会	18：00	閉会	19：25
開催場所	市役所 3 階 302 会議室 オンライン併用			
出席者				
協議会・WG メンバー	会場：黒河内貴氏、政金裕太氏 O L：志知貴文氏、鈴木孝之氏			
事務局・職員	会場：企画部企画政策課 織井邦明課長、有賀慎課長補佐、 村田和也新産業技術推進係長			
関係者	—			
欠席者	細谷啓太氏、土田智氏、瀧内貫氏			
議事	1、「対話・つながり・実現の場」の振り返りと今後の展開について			

議事項目	概要	次のステップ
1、「対話・つながり・実現の場」の振り返りと今後の展開について		
あいさつ 「対話・つながり・実現の場」の振り返り	○WG メンバー ・6月15日(日)「対話・つながり・実現の場」では、かなりの写真やコメント、意見が集まった。 ・参加したメンバーから感想や今後の展開のアイデアを聞きたい。 ○WG メンバー ・狙い通り、歩いている人目線での課題や魅力が出された。 ・デジタルを活用し、まち歩きによってリアルタイムに「見える化」という流れは非常によかった。 ・今回のような情報が貯まっていけば観光マップに活用したり、課題が集積されることによって行政サービスに活かすこともできる。 ・「見える化」によって、「こんなことを考えている人がある」ということも見える化がされるので、私も一緒にやりたい、プロジェクトを起こしたいといった人が増えるきっかけになればと思う。 ・まちづくりのことを考え続ける、考え続ける人を増やすという観点で今回のやり方はよかったと思う。 ○WG メンバー ・報告書ができあがり見える形になるというだけでも意味があると感じた。報告書が多くの方の目に触れるとよい。	

- ・市報やケーブルテレビは結構見ている人がいる。そういったところで情報発信するだけでも市民の関心が高まるのではないか。
- ・今回集まったまちなかエリアの魅力、課題で、市として予算付けをして事業化するネタとなるようなものがあつたか気になっている。

○事務局

- ・「緑地が少ない」、「空いている駐車場がある」といった課題や、「緑地化して憩いの場として整備してはどうか」というハード整備の参考になる意見もあつた。
- ・「景観」に関する課題、魅力も出された。「景観」については行政の役割と考える。
- ・「水路」の話も多く出された。そういった資源を安全に整備して水に親しめる環境を作るというハード面の整備の必要性も感じた。

○事務局

- ・現在、市街地循環バスは伊那北駅に乗り入れておらず、乗り入れができた方がよいという意見が出された。乗り入れられるようにすることで伊那北駅周辺整備の国の補助金の要件にも合致するようであり、今後市としての検討事項になり得る。

○事務局

- ・今回のマップ上に魅力や課題を落とし込む「見える化」の手法を今後さらにまちづくりに活かしていきたい。
- ・「セントラルパークの活用」、「空き地の増加」といった行政でも取り組むべき課題も挙げられた。
- ・西町・荒井コースでは「緑地化」、「住宅化」、「ウォーカブル」、伊那北コースでは「歴史」、飲み屋街コースでは「情報発信」や「マッチング」、イーナちゃんバスコースでは「車内での案内」など具体的な話題が出て、コースごとに特徴がありおもしろかった。

○WG メンバー

- ・一参加者として「空き地が目立っている」ということは感じた。もし伊那市が都市計画をやり直すならば現状のマッピングをすれば役立つのではないかと想像しながら歩いていた。
- ・もし駐車場や水路を地図データに落とし込めていないのであれば非常に興味がある。
- ・研究者目線では、今回集まったデータだけでも相当研究に活かそうである。引き続きデータを集めて

「見える化」プラットフォーム	マップを完成させるとともに、まちを歩いている人たちがどんな視点でまちを見ているのかを分析、解析することも必要だと感じた。 ○WG メンバー ・伊那北駅と伊那市駅の間に高校生のカップルなどがある場所がまったくないと感じた。 ・箕輪町のみのわ BASE のような学習室のほかにグループワークができるような高校生が集まれる施設が伊那市にはない。「高校生の居場所づくり」ということは考えなければならない一つのテーマであると感じた。 ・今回のマップへの落とし込みによる「見える化」自体を徹底して突き詰めていくこともまちなかエリア高度化のかなり大きな成果になるのではないかと感じた。 ・今回の「見える化」をさらに発展させていける可能性はあるか。 ○WG メンバー ・今回は、お金を掛けずに「見える化」するということもひとつのポイントであった。 ・現在さまざまな GIS(Geographic Information System:地理情報システム)という、地図上に情報を載せて管理・分析するシステムがある。今回の LINE のように、伊那市がすでに持っている GIS で市民に開放すればオープンデータとして見られるものもある。 ・この WG の 1 つの柱が「見える化」だとして、まちづくり関わる人を増やす、課題解決の関係者を増やすといった目的とありたい姿があって初めて、どんなツールを使うかという話になる。 ・「見える化」のデジタル的な展望という点では、現在いろいろなことができるようになっている。予算化が必要なものもあるし、予算がなくても知恵の出し方でいろいろなことができる。 ○WG メンバー ・今回の LINE の機能を使って、市長への手紙をもう少し気軽にした感じで行政への不満を上げてもらうのはどうだろうか。 ○WG メンバー ・シェアリングエコノミーを活用したまちづくりに近い考えだと思う。不満を「見える化」したとして、今までであればそれを解決するのは行政の仕事であったが、シェアリングエコノミーの考え方の中で	
-----------------------	--	--

	は、必ずしも行政だけで解決するものではないという考え方が広まってきている。 ・シェアリングエコノミーでは、「私はこれに困っている」、「私はこれができる」、「私はこれが余っているから貰ってほしい」、「私はそれを貰いたい」というニーズとシーズが「見える化」されてマッチングされていく。 ・市民同士でマッチングしてもよいし、メリットを感じるならば企業がマッチングしてもよいし、行政がマッチングしてもよい。全体として見ると、地域全体の課題解決、持続可能なまちづくりにつながるものである。 ・地域創造課事業の「こころむすび」という無償のプラットフォームも同じ考え方である。「こころむすび」はポイント制で、企業に協賛してもらった品と交換をしたり、昨年、一昨年などは貯まったポイントを高遠まんじゅうと交換したりした。 ・シェアリングエコノミーは持続可能性を追い求める発想で、2015 年頃に一度盛り上がった。 ・今でも総務省はシェアリングエコノミーと言うが、自転車やスペースに特化したものを除き、オールジャンルの課題に対し、実際に軌道に乗っているシェアリングエコノミーはないのではないか。 ○WG メンバー ・ニーズには、自慢と不満両方ある。 ・例えば今回の LINE 機能を継続して、まちの自慢と不満を上げてもらい、ポイントを付与するような形はどうか。商工会議所等と連携し、市民のニーズが知れるというメリットに対して企業に協賛してもらいポイントの原資とする。 ○事務局 ・市民からの不満が誰からも見られる状態になると、不当要求のような不満もほったらかしにできなくなる。個人情報等もあるだろうから、誰からも見られる状態になる前にフィルターをかけたい。 ○WG メンバー ・毎月の市報等に QR コードを載せてお気づきのことをお寄せくださいといった広報をすれば、市長への手紙より意見を書きやすいのではないか。 ○事務局 ・まちづくりに活かせるヒントは得られそうであるが、市長への手紙とは別に LINE からのご意見が寄せられるという状態になると膨大な事務量になる。	
--	---	--

WG の目標	○WG メンバー ・ LINE の機能を活用した「見える化」を今後も続けていきたいという流れはすごくよいと思う。 ・ 市の LINE 機能を活用させてもらって、この WG で運営するプラットフォームのような形にして、まちづくりに関する意見に限定して集めるという方法が現実的であると思う。 ・ 市民の中からプラットフォームの運営をやりたいという人が出てくるかもしれないし、出てきた意見を実現したい人にも出てきてほしい。 ・ そのためには、継続してプラットフォームを使っていくのと同時に、今後の WG で何を仕掛けていくかも考えていかなければならない。 ・ 例えば 2025 年度中に 3 つ市民発の事業が起こるといような目標がないとなあなあになってしまう気がする。WG でやったことの成果の把握は大切である。 ・ 1 年目はここまで、2 年目はここまでという 1 年くらいのざっくりした WG の目標があった方がやりやすい。 ・ もちろんプラットフォームができればそれも成果であり、そこに何件のアクセスがあったというのも成果ではあるが、まずはまちなかエリア WG で何をやりたいかが大事である。 ・ 例えば「高校生の居場所」、「空き地の有効活用」といったテーマがプラットフォーム上に上がり、それに活用できそうな補助金等の情報もあり、プラットフォームを見に行った人が「これなら自分にもできそう」「自分も取り組みたい」と手を挙げてプロジェクトが動き出すといった流れができればよい。 ・ どんなテーマをプラットフォームに上げていくのかを今までの「対話・つながり・実現の場」で出された意見から抽出できればよいのではないかな。 ○事務局 ・ 今回の「対話・つながり・実現の場」でも「レンタルサイクルがあればよい」といような意見もあった。例えば新たな移動手段としてシェアサイクルプロジェクトを立ち上げて、まちなかエリアで実験的に行ってみて、その結果を次のまちづくりに活かしていくような取組もよいのではないかな。プロジェクトを動かしてみないと見えてこないものもある。 ○WG メンバー	
--------	---	--

テーマ候補を列挙	・具体的には通り町のニシザワ跡地などにレンタサイクルステーションを作り、それによって人の往来ができれば、また物販の店舗等が併設されるかもしれない。最近の電動自転車であれば、みはらしファームくらいまでは行けるのではないか。伊那市まで高速バスで来た営業の方も使うかもしれない。 ・イーナちゃんバスは自転車を乗せられるか。 →畳んでバッグ等に入れられればよいが、基本は電車も含めて無理である。(事務局) ・例えば、セントラルパークに井戸を掘り、その水が汲めるようになればよいと思う。昔は井戸端会議に人が集まったが、今の時代であると災害対策としてまちなかに井戸が必要というのは理解が得られるのではないか。 ・前回の規模ほど大きくなく、テーマを絞ったところでミニまち歩きをしたり、意見交換するという「対話・つながり・実現の場」をやってもよいと思う。 ○WG メンバー ・WG メンバーがもっと多く参加できるタイミングでもう一回テーマ案を出し合い、次回の「対話・つながり・実現の場」で提示する。そのテーマに興味がある人が集まり、まち歩き等も通じて議論が始まるという今後の流れかと思っている。 ○WG メンバー ・バーチャルの世界だけでのシェアリングは限界があると考えており、以前からコンビニがリアルなシェアリングの拠点になればと考えていた。 ・伊那市は、採れ過ぎた野菜や作りすぎた食べ物を近所に分けてくれるような習慣がまだ残っている。そういう拠点でもよい。 ・そういった伊那市の至る所で当たり前に起こっていることの拠点をまちなかエリアに設けて、シェアの可視化とシェアの大きな流れができればよいのではないか。 <▼大きなテーマ、▽具体的なテーマ> ▼「見える化」プラットフォーム運営目的、手法 ▽リアルシェアリング拠点(困りごとコンビニ) ▼防災・ヒートアイランド対策・景観 ▽空き地の有効活用 ▽緑地化 ▽井戸 ▽水路	
-----------------	---	--

	▽バラ ▼歴史 ▼観光 ▼交通 ▽シェアサイクル ▽イーナちゃんバスの活用、車内案内 ▼公園 ▽セントラルパークの位置づけ(駐車場である必要性)、活用 ▽Parking Day(イベント的な発想で暫定的に駐車スペースを小さな公園に変える。 ▼食 ▼情報発信 ▼その他 ▽高校生(若者)の居場所 ▽二次元的な空きスペースの有効活用と時間軸での棲み分け ○WG メンバー ・次回もっとメンバーが集まるタイミングで WG を開催し具体的なテーマを絞り込んでいくこととする。	
--	---	--

■今後のスケジュール

<次回 WG>

- ・ 7 月 29 日(火) 市役所 3 階 302 会議室 (オンライン併用)